

論文ガイダンス②
論文作法講座

2025年6月



ガイダンスの内容

このガイダンスで**扱うこと** : 論文・レポートの体裁や書式

このガイダンスで**扱わないこと** : 研究・調査の進め方、論文の書き方

⇒論文に必要な調査を終えた段階で、

最終的に論文をまとめる際に必要なことを説明します。

1. 基本的注意事項 (pp. 3-9)

①用字の統一、②凡例、③章分け・見出し分け、④目次、⑤提出の形式

2. 論文の構成 (p. 10)

要旨、表紙、目次、凡例、論文、付録、参考文献表

3. 引用 (pp. 11-15)

4. 文献・資料の書式 (pp. 16-36)

①単行本、②論文集・雑誌、③事典項目、④学位論文、

⑤楽譜、⑥録音・映像資料、⑦オンライン

なぜ論文では体裁や書式を整える必要があるのか

⇒論文は他者が読むものです。

自分だけが理解していればよいというものではありません。

以下の2点を達成するために、体裁や書式が重要になります。

読者に内容を
明確に伝える



- ・一貫した基準を用いる
- ・論文の前提を共有する
- ・論文の構成を明確にする

論証の過程を
追えるようにする



- ・論拠を明確にする
- ・自分と他者の意見を分ける

基本的注意事項

読者に内容を明確に伝える

⇒論文を一貫した基準で構成し、それを読者がわかる形で表現する

- ・[用字の統一](#)
- ・[凡例](#)
- ・[章分け・見出し分け](#)
- ・[目次](#)
- ・[提出の形式](#)

論証の過程を追えるようにする

⇒著者の意見と他者の意見を分け、論拠を明確にする

- ・[論文中の議論の根拠と著者の意見を明確にする](#)
- ・[出典を示す](#)

基本的注意事項①

・①用字の統一

論文の中で用いる言葉は一定の基準にもとづいて一貫したものである必要があります。

⇒様々な表記が混在しないようにしましょう

【作曲者や曲名の場合】

悪い例：

ベートーベン『交響曲第九番二短調』『合唱付き』

ベートーヴェン《交響曲第9番作品125》 などが混在

【書名・略号の場合】

悪い例：

ニューグローブの「装飾法」の項目では～

『ニューグローヴ世界音楽大事典』、「装飾法」では～

NG「装飾法」では～ などが混在

基本的注意事項②

・②凡例

略号など、論文全体について断っておくべき事項について、冒頭で凡例として示します。
頻出する資料や文献を数多く略号で示す際は、略号表を付してもよいでしょう。

【例】

・凡例

1. 音楽作品の楽曲名には《》を用いた。
2. 引用文中に補足が必要な場合、〔〕を付して補足した。
3. ラテン語およびギリシア語の人名および用語について、母音の長短は区別せず表記した。
4. 以下の事典については略語で示した。

NG2 :

Sadie, Stanley, and John Tyrrell. 2001. The New Grove dictionary of music and musicians. New York: Oxford University Press.

MGG2 :

Blume, Friedrich, and Ludwig Finscher. 2006. Die Musik in Geschichte und Gegenwart: allgemeine Enzyklopädie der Musik. Kassel: Bärenreiter.

基本的注意事項③

・③章分け・見出し分け

読者にとって論文の構成がわかりやすいように、
内容に応じて適切に章や節といった見出しを付けて構造を階層的に整理しましょう。
章の冒頭では改ページすると内容を明確に区分できます。

【例】

章分け→

第1章 イングランドにおける修辞学

本章では 16-17 世紀イングランドにおける修辞学の伝統について扱う。最初にクインティリアヌスを筆頭とした古典修辞学書および人文主義者たちによって新たに出版されたラテン語による修辞学書の受容について概観し、その後に英語による俗語修辞学書の登場と展開を扱う。最後にそれらの修辞学書が実際の教育の中で果たした役割を明らかにする。

節分け→

1-1. ラテン語修辞学書の受容

基本的注意事項④

・④目次（例）

一目で構成が分かるよう、
項目のページ数が分かるように
目次を作成しましょう。

※Wordを使用する場合、
目次として設定したい本文中
の見出しにアウトラインレベルを
設定することで、「参考資料」
→「目次」から目次を自動で
作成することができます。

西原稔、『ピアノの誕生』。講談社、
1995年。より目次部分を再構成

目次

はじめに	1
第一章 戦争と革命が発展をうながす	
1 歴史のなかのピアノ	8
2 イギリス・アクションの勝利	18
3 新しい時代の幕あけ—スタインウェーの登場.....	31
第二章 産業の楽器	
1 ピアノ一台、部品は三千八百	44
2 技術と美意識との葛藤	52
3 ピアノ三国志.....	66
第三章 ヴィルトゥオーソの時代	
1 ピアノ製造に乗り出す	78
2 エチュードの思想	85
3 ペダルに託したロマンティシズム	97
第四章 ピアノという夢	
1 家族の肖像	120
2 乙女の祈り	131
3 消費される音楽.....	145
第五章 ピアノ狂騒曲	
1 教師はつらいよ	156
2 ヴィルトゥオーソ養成ギブス	173
第六章 自動楽器	

基本的注意事項⑤

・⑤提出の形式（詳細は履修案内および掲示を参照）

提出期限

修士論文、研究レポートの提出期限は原則として毎年12月1日です。
（音楽学専攻のみ12月15日）

提出形式

詳細は10月1日に掲示発表されますが、例年、原則として下記一式の提出が必要となります。

- ①研究レポート・修士論文提出票 **3枚**（下記②、③にそれぞれ付す）
- ②印刷した論文＋要旨 **2部**
→製本の指定はありませんが、そのまま審査に使用するため、
散逸しないよう簡易にでも製本をして提出してください。
- ③論文データを書き込んだCD-R
→WordやPages等で作成した場合でも、PDF形式で出力・保存して提出してください。
- ④学位論文利用許諾書
→図書館で保存・公開するための許諾書です。

論文の構成

論文は多くの場合次のような要素から構成されます

- ・**要旨**：論文の概略を示す（背景・目的・方法・結果・結論など）
- ・**表紙**：題目（タイトル）や氏名、専攻名を示す
- ・**目次**：論文の構成とページ数を示す
- ・**凡例**：論文全体に関する事項について予め示す
- ・**論文本文**：序論・本論・結論を含む
- ・**脚注**：本文の補足あるいは根拠となる出典
- ・**付録**：参考資料等、論文に付随する資料を付す
- ・**参考文献表**：論文執筆に際して参照した文献をまとめる

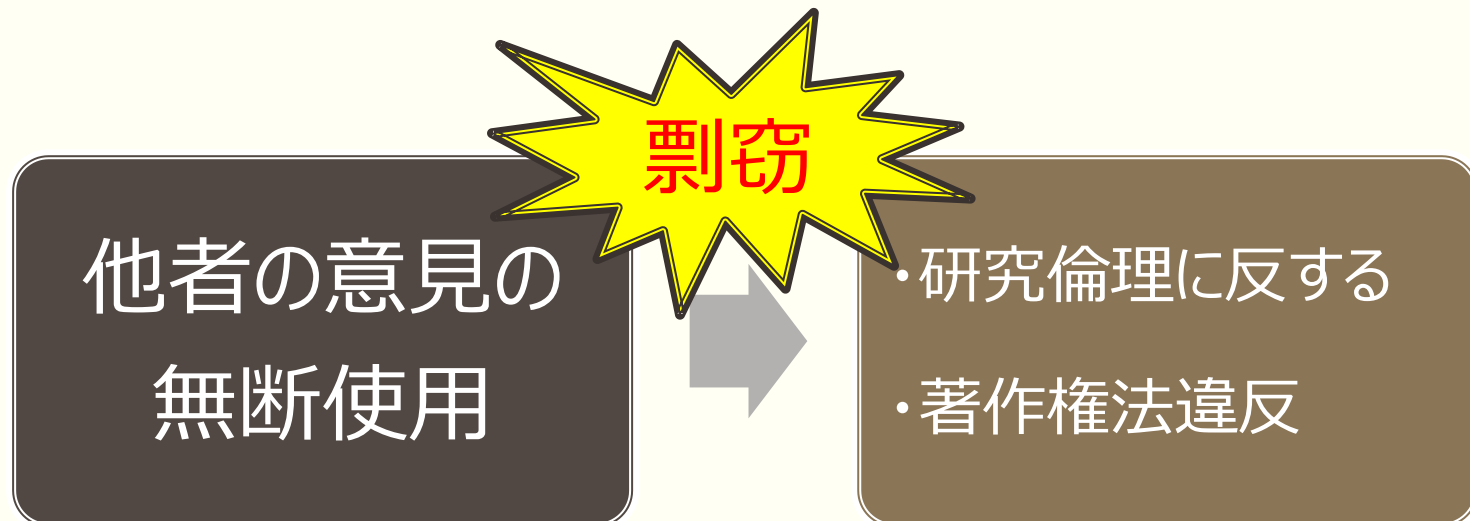
引用

・著者の意見と他者の意見の区別

論証の過程を追えるよう、著者の意見と他者の意見は明確に区別する必要があります。

他者がどのように述べているのか、その結果/それに対して著者はどのように考えるのか、を読み手が分かるようにしなければなりません。

コピペなどで論文中に無断で他者の意見を用いることは、「剽窃」といい、研究倫理に反するだけでなく、著作権法違反等の権利侵害によって訴訟になる可能性もあります。



引用

・引用と著作権

論文中で他者の**著作物**（※）を利用する際には、著作権法に則る必要があります。

次の条件を満たす場合、著作権者の許諾なしで利用することができます（第32条）

- ①慣行に従った引用
- ②正当な範囲内での引用：必然性のない多量の引用や全体の引用は認められない
- ③引用部分と本文が明瞭に区別できる
- ④本文が主で引用が従
- ⑤著作物の出所と著作者名を表示する（第48条）
- ⑥公表された著作物→刊行されていない私的な著作については許諾が必要です

→一般に、論文では一定の書式に則って出典を明記すれば引用として認められます

※**著作物**：「思想又は感情を創作的に表現したものであつて、文芸、学術、美術又は音楽の範囲に属するもの」（第2条1項）→楽譜も文章も音源も写真も著作物です

引用

・その他の制限

※契約データベースやその他のオンライン・アーカイブでは、
利用規約等にもとづいて利用に制限が設けられている場合があります。

多くの場合、ダウンロード前に利用規約の確認画面が表示されるので、
利用条件について確認の上利用してください。

・クリエイティブ・コモンズ

次のようなマークが付されている場合、クリエイティブ・コモンズという
著作権ルールが採用されています。ルールを守って利用しましょう。



表示

作品のクレジットを表示すること



非営利

営利目的での利用をしないこと



改変禁止

元の作品を改変しないこと



継承

元の作品と同じ組み合わせのCCライセンスで公
開すること



「クリエイティブ・コモンズ・ライセンスとは」 (<https://creativecommons.jp/licenses/>) より、
2021.10.6アクセス。

引用

・本文と引用の区別

他者の意見に論文中で言及する際には次の3つの方法があります。

いずれの場合も、出典を示す必要があります。※出典の表記方法はこの通りでなくても構いません

1. 他者の意見を著者の意見でまとめる

【例】スモールはミュージッキングという概念で音楽を行為として捉えた（2011, 30-46）。

2. 本文中での短い引用→引用符を用いて直接他者の文章を引用する

【例】スモールによれば、「『音楽する』とは、どんな立場からであれ音楽的なパフォーマンスに参加すること」だという（2011, 30-31）。

3. 本文中での長い引用→本文から1行空け、字下げ（インデント）して引用する。

【例】スモールは次のように述べている。

「音楽する」とは、どんな立場からであれ音楽的なパフォーマンスに参加することであり、これには演奏することも聴くことも、リハーサルや練習も、パフォーマンスのための素材を提供すること（つまり作曲）も、ダンスも含まれる。（2011, 30-31）

引用

・参考文献表

→論文を執筆する際に参照した文献をまとめてリスト化します。

参照した文献が明確になるよう一定の規則に従って記載する必要があります。

数が多い場合は、一次資料、二次資料や楽譜資料、録音資料等、資料の性格毎にグループ分けしてもよいでしょう。

参考文献表の書式については、論文中で言及する文献の示し方と併せて、次のスライド以降で示します。

文献・資料の書式

論文で言及した文献・資料については、読者が参照できるよう示す必要があります。

文献・資料の書式に関する代表的な参考文献は、次の3つです。

- ウィンジェル, リチャード J. 2014. 『改訂新版 音楽の文章術——論文・レポートの執筆から文献表記法まで』. 宮澤淳一, 小倉眞理訳. 春秋社.

OPACのURL:

<https://webopac.tohomusic.ac.jp/opac/library?func=function.opacsch.toshosh.ozodsp&view=view.opacsch.newschedsp&shoshisbt=1&shoshino=0000292929>

- トゥラビアン, ケイト・L. 2012. 『シカゴ・スタイル——研究論文執筆マニュアル』. 沼口隆, 沼口好雄訳. 慶應義塾大学出版会.

OPACのURL:

<https://webopac.tohomusic.ac.jp/opac/library?func=function.opacsch.toshosh.ozodsp&view=view.opacsch.newschedsp&shoshino=0000286242&shoshisbt=1>

- 日本音楽学会ウェブサイト. 2023. 「『音楽学』書式の原則」. 2025年6月11日アクセス.
<https://www.musicology.jp/head/wp-content/uploads/2024/08/msjstyles.pdf>

※書式は絶対的なものではありません。指定された書式を用いるよう留意してください。

文献・資料の書式

論文中で言及した箇所と参考文献表の場合では、出典の表記法が若干異なります。

・論文中で文献・資料に言及する場合（文献注、脚注、文末注）

→言及した文献の詳細を示す場合と、略記する場合があります。

1. 言及した文献の詳細を注で示す（注・文献表方式：Notes and Bibliography）

※区切りにはコンマ[,]を用い、著者名は欧文：名姓、日本語：姓名とします

【例】

スモールはミュージッキングという概念で音楽を行為として捉えた¹。↵

¹ クリストファー・スモール著, 野澤豊一, 西島千尋訳『ミュージッキング』（水声社, 2011）, 30-46 頁。↵

・論文中で言及した資料について最後に参考文献表で示す場合

→参考文献表では、言及した文献の詳細を示す必要があります。

※区切りにはピリオド[.]を用い、著者名は姓, 名とします

【例】スモール, クリストファー著. 野澤豊一, 西島千尋訳. 『ミュージッキング』. 水声社. 2011年.

文献・資料の書式

論文中で言及した箇所と参考文献表の場合では、出典の表記法が若干異なります。

・論文中で文献・資料に言及する場合（文献注、脚注、文末注）

→言及した文献の詳細を示す場合と、略記する場合があります。

2. 言及した文献について略記する（著者刊行年方式：Author-Date）

※カッコ内に著者の姓と発行年、必要な場合はページ数を記します

【例】

スモールはミュージッキングという概念で音楽を行為として捉えた（2011, 30-46）。

もしくは

ミュージッキングという概念で音楽は行為として捉えられた（スモール 2011, 30-46）。

・論文中で言及した資料について最後に参考文献表で示す場合

→参考文献表では、言及した文献の詳細を示す必要があります。

※区切りにはピリオド[.]を用い、著者名は姓, 名とします

【例】スモール, クリストファー著. 2011. 野澤豊一, 西島千尋訳. 『ミュージッキング』. 水声社.

文献・資料の書式

①単行本の場合（△は半角スペースを意味します）

必要事項：

→**著者名**、（訳者名）、『**書名**』（欧文の場合イタリック）、**出版年**、（出版地）、**出版社**、（引用ページ）

・文献・資料について論文中で言及する場合

1. 言及した文献の詳細を注で示す（注・文献表方式）

【例】

沼野雄司, △『エドガー・ヴァレーズ：孤独な射手の肖像』（春秋社, 2019年）, △290-292頁.

Robert Philip, △*Performing Music in the Age of Recording* (New Haven: Yale University Press, 2004), △pp.△33-35.

2. 言及した文献について略記する（著者刊行年方式）

【例】（沼野△2019, △290-292）（Philip△2004, △33-35）

文献・資料の書式

①単行本の場合（△は半角スペースを意味します）

必要事項：

→**著者名**、（訳者名）、**『書名』**（欧文の場合イタリック）、**出版年**、（出版地）、**出版社**、（引用ページ）

・論文中で言及した資料について最後に参考文献表で示す場合

【例】

沼野雄司.△『エドガー・ヴァレーズ：孤独な射手の肖像』.△春秋社.△2019年.

Philip,△Robert.△ *Performing Music in the Age of Recording*.△
New Haven:△Yale University Press, 2004.

・著者刊行年方式の場合

沼野雄司.△2019.△『エドガー・ヴァレーズ：孤独な射手の肖像』.△春秋社.

文献・資料の書式

②論文集・雑誌の場合（△は半角スペースを意味します）

必要事項：

→**著者名**、（訳者名）、「**記事・論文名**」（欧文の場合二重引用符）、『**書名・雑誌名**』（欧文の場合イタリック）（巻号）（出版社）、**出版年・発行年**（発行元）、引用ページ

・文献・資料について論文中で言及する場合

1. 言及した文献の詳細を注で示す（注・文献表方式）

【例】

安田和信, △「W.A.モーツァルトの再現部における楽節の再配列について」, △『**桐朋学園大学研究紀要**』△第43集, △**2017年**：19-36頁.

2. 言及した文献について略記する（著者刊行年方式）

【例】（**安田**△**2017**, △19-36）

文献・資料の書式

②論文集・雑誌の場合（△は半角スペースを意味します）

必要事項：

→**著者名**、（訳者名）、「**記事・論文名**」（欧文の場合二重引用符）、『**書名・雑誌名**』（欧文の場合イタリック）、（巻号）、（出版社）、**出版年・発行年**、（発行元）、引用ページ

・論文中で言及した資料について最後に参考文献表で示す場合

【例】

安田和信.△「**W.A.モーツァルトの再現部における楽節の再配列について**」△『**桐朋学園大学研究紀要**』.△第43集,△**2017年**：19-36頁.

・著者刊行年方式の場合

安田和信.△**2017**.△「**W.A.モーツァルトの再現部における楽節の再配列について**」.△『**桐朋学園大学研究紀要**』.△第43集：19-36頁.

文献・資料の書式

③事典項目の場合（△は半角スペースを意味します）

必要事項：

→（著者名）、（訳者名）、「項目名」（欧文の場合二重引用符）、『書名』（欧文の場合イタリック）、（巻号）、出版社、出版年・発行年、（発行元）、引用ページ

・文献・資料について論文中で言及する場合

1. 言及した文献の詳細を注で示す（注・文献表方式）

【例】

James Webster, △小林達子訳△「ソナタ形式」, △『ニューグローヴ世界音楽大事典』△第10巻, △（講談社, △1994年）所収, △92-100頁.

2. 言及した文献について略記する（著者刊行年方式）

【例】（Webster △1994, △92-100）

文献・資料の書式

③事典項目の場合（△は半角スペースを意味します）

必要事項：

→（著者名）、（訳者名）、「項目名」（欧文の場合二重引用符）、『書名』（欧文の場合イタリック）、（巻号）、出版社、出版年・発行年、（発行元）、引用ページ

・論文中で言及した資料について最後に参考文献表で示す場合

【例】

Webster, James. △小林達子訳 △「ソナタ形式」 △『ニューグローヴ世界音楽大事典』. △第10巻所収, △19-36頁. △講談社, △1994年.

・著者刊行年方式の場合

Webster, James. △1994. △小林達子訳 △「ソナタ形式」. △『ニューグローヴ世界音楽大事典』. △第10巻所収, △19-36頁. △講談社.

文献・資料の書式

④学位論文の場合（△は半角スペースを意味します）

必要事項：

→**著者名**、「**論文名**」、学位の種類、**学位授与大学**、**学位授与年（年度）**

・文献・資料について論文中で言及する場合

1. 言及した文献の詳細を注で示す（注・文献表方式）

【例】

今井千絵, △「カロル・シマノフスキのピアノ曲『メトープ』『仮面劇』と文学の関連性：ミュージカル・エクブラシスの視点から」, △博士論文, △桐朋学園大学, △2020年3月.

2. 言及した文献について略記する（著者刊行年方式）

【例】（今井△2020）

文献・資料の書式

④学位論文の場合（△は半角スペースを意味します）

必要事項：

→**著者名**、「**論文名**」、学位の種類、**学位授与大学**、**学位授与年（年度）**

・論文中で言及した資料について最後に参考文献表で示す場合

【例】

今井千絵.△「カロル・シマノフスキのピアノ曲『メトープ』『仮面劇』と文学の関連性：ミュージカル・エクブラシスの視点から」.△博士論文,△桐朋学園大学,△2020年3月.

・著者刊行年方式の場合

今井千絵.△2020.△「カロル・シマノフスキのピアノ曲『メトープ』『仮面劇』と文学の関連性：ミュージカル・エクブラシスの視点から」,△博士論文,△桐朋学園大学,△3月.

文献・資料の書式

⑤楽譜の場合（△は半角スペースを意味します）

必要事項：

→**著者名**、（編者・校訂者名）、**書名（欧文の場合イタリック）**、**出版年**、
（出版番号）、（出版地）、出版社

※必要事項は主にタイトル・ページをもとに記述する。

複数言語が併記されている場合、いずれか1つの言語を選んで記述する。

・文献・資料について論文中で言及する場合

1. 言及した文献の詳細を注で示す（注・文献表方式）

【例】

Max Reger, △ *Three Suites for Violoncello Solo*, △ edited by Jürgen Schaarwächter, △ (Stuttgart: △ Carus, △ 2020)

2. 言及した文献について略記する（著者刊行年方式）

【例】（Reger △ 2020）

文献・資料の書式

⑤楽譜の場合（△は半角スペースを意味します）

必要事項：

→**著者名**、（編者・校訂者名）、**書名（欧文の場合イタリック）**、**出版年**、
（出版番号）、（出版地）、出版社

※必要事項は主にタイトル・ページをもとに記述する。

複数言語が併記されている場合、いずれか1つの言語を選んで記述する。

・論文中で言及した資料について最後に参考文献表で示す場合

【例】

Reger, △Max. △ *Three Suites for Violoncello Solo*. △ Edited by Jürgen Schaarwächter. △ Stuttgart: △ Carus, △ 2020.

・著者刊行年方式の場合

Reger, △Max. △ 2020. △ *Three Suites for Violoncello Solo*. △ Edited by Jürgen Schaarwächter. △ Stuttgart: △ Carus.

文献・資料の書式

⑥録音・映像資料の場合 ※詳細はウィンジェル（2014, 59-71）を参照

必要事項：

→作曲家・演奏家・演奏団体名、録音年、録音タイトル（欧文の場合イタリック）、（指揮者）、レーベル名・カタログ番号、出版年、媒体の種類

※項目の頭には作曲家・演奏家・演奏団体名もしくはレーベル名を使用可能
年号には録音年もしくは出版年を使用可能

・文献・資料について論文中で言及する場合

1. 言及した文献の詳細を注で示す（注・文献表方式）

【例】Ludwig van Beethoven, △*Sonatas & Variations for Cello & Piano*, △with Gautier Capucon and Frank Braley, △rec. March 17-23, 2016, △Erato WPCS13554-13555, △CD.

2. 言及した文献について略記する（著者刊行年方式）

【例】（Beethoven△2016）, （Capucon△2016）など

文献・資料の書式

⑥録音・映像資料の場合 ※詳細はウィンジェル（2014, 59-71）を参照

必要事項：

→作曲家・演奏家・演奏団体名、録音年、録音タイトル（欧文の場合イタリック）、（指揮者）、レーベル名・カタログ番号、出版年、媒体の種類

※項目の頭には作曲家・演奏家・演奏団体名もしくはレーベル名を使用可能
年号には録音年もしくは出版年を使用可能

・論文中で言及した資料について最後に参考文献表で示す場合

【例】Beethoven, △Ludwig van. △*Sonatas & Variations for Cello & Piano*, △Gautier Capucon and Frank Braley. △Recorded March 17-23, 2016. △Erato WPCS13554-13555. △CD.

・著者刊行年方式の場合

Beethoven, △Ludwig van. △2016. △*Sonatas & Variations for Cello & Piano*, △Gautier Capucon and Frank Braley. △Recorded March 17-23 △Erato WPCS13554-13555. △CD.

文献・資料の書式

⑦オンライン・ウェブサイトの場合（△は半角スペースを意味します）

必要事項：

→**著者・作成者名**、**ページ名**、**ウェブサイト名**、アドレス・DOI、**更新日・閲覧日**

※ウェブサイトは単行本とみなし、ブログは雑誌とみなすことがある

・文献・資料について論文中で言及する場合

1. 言及した文献の詳細を注で示す（注・文献表方式）

【例】

Center for Beethoven Research,△“Beethoven Autographs Online,”△
Boston University Center for Beethoven Research,△accessed October
1, 2020,△[http://www.bu.edu/beethovencenter/beethoven-
autographs-online/](http://www.bu.edu/beethovencenter/beethoven-autographs-online/).

2. 言及した文献について略記する（著者刊行年方式）

【例】（Center for Beethoven Research△2020）

文献・資料の書式

⑦オンライン・ウェブサイトの場合（△は半角スペースを意味します）

必要事項：

→**著者・作成者名**、**ページ名**、**ウェブサイト名**、**アドレス・DOI**、**更新日・閲覧日**

※ウェブサイトは単行本とみなし、ブログは雑誌とみなすことがある

・論文中で言及した資料について最後に参考文献表で示す場合

【例】

Center for Beethoven Research.△“Beethoven Autographs Online.”△
Boston University Center for Beethoven Research.△Accessed October 1,
2020.△<http://www.bu.edu/beethovencenter/beethoven-autographs-online/>.

・著者刊行年方式の場合

Center for Beethoven Research.△2020.△“Beethoven Autographs
Online.”△Boston University Center for Beethoven Research.△Accessed
October 1,△<http://www.bu.edu/beethovencenter/beethoven-autographs-online/>.

文献・資料の書式

⑦オンライン辞典・事典の場合（△は半角スペースを意味します）

必要事項：

→（**著者名**）、**項目名**、**辞典・事典名・データベース名**、（出版者）、**アクセス日**、**アドレス・DOI**

・文献・資料について論文中で言及する場合

1. 言及した文献の詳細を注で示す（注・文献表方式）

Kerry S. Grant, △ "Burney, Charles," △ in Grove Music Online,
△ Oxford Music Online (Oxford University Press), △ accessed
October 1, 2020, △

<https://doi.org/10.1093/gmo/9781561592630.article.04399>

2. 言及した文献について略記する（著者刊行年方式）

(Grant△2020)

文献・資料の書式

⑦オンライン辞典・事典の場合（△は半角スペースを意味します）

必要事項：

→（**著者名**）、**項目名**、**辞典・事典名・データベース名**、（出版者）、**アクセス日**、**アドレス・DOI**

・論文中で言及した資料について最後に参考文献表で示す場合

Grant, △Kerry S. △"Burney, Charles." △In Grove Music Online. △Oxford Music Online. △Oxford University Press. △Accessed October 1, 2020. △
<https://doi.org/10.1093/gmo/9781561592630.article.04399>

・著者刊行年方式の場合

Grant, △Kerry S. △2020 △"Burney, Charles." △In Grove Music Online. △Oxford Music Online. △Oxford University Press. △Accessed October 1. △
<https://doi.org/10.1093/gmo/9781561592630.article.04399>

文献・資料の書式

⑦オンライン録音・映像の場合（△は半角スペースを意味します）
※YouTubeの場合等、詳細はウィンジェル（2014, 76-78）を参照

必要事項：

→録音・映像資料の場合に準じ、**ウェブサイト名**、**アクセス日**、**アドレス・DOI**を追加する

・文献・資料について論文中で言及する場合

1. 言及した文献の詳細を注で示す（注・文献表方式）

Henry Purcell, △*King Arthur*, △with Gabrieli Consort and Players,
conducted by Paul McCreesh, △rec. January 14-18, 2019, △Signum
Classics SIGCD589, △CD, △**Naxos Music Library**, △**accessed October**
1, 2020, △<https://ml.naxos.jp/album/SIGCD589>

2. 言及した文献について略記する（著者刊行年方式）

（Purcell 2019）、（McCreesh 2019）など

文献・資料の書式

⑦オンライン録音・映像の場合（△は半角スペースを意味します）

※YouTubeの場合等、詳細はウィンジェル（2014, 76-78）を参照

必要事項：

→録音・映像資料の場合に準じ、**ウェブサイト名**、**アクセス日**、**アドレス・DOI**を追加する

・論文中で言及した資料について最後に参考文献表で示す場合

Purcell, Henry.△*King Arthur*.△Gabrieli Consort and Players,
conducted by Paul McCreesh.△Recorded January 14-18,
2019.△Signum Classics SIGCD589.△CD.△**Naxos Music Library**.△
Accessed October 1, 2020.△ <https://ml.naxos.jp/album/SIGCD589>

・著者刊行年方式の場合

Purcell, Henry.△2019.△*King Arthur*.△Gabrieli Consort and Players,
conducted by Paul McCreesh.△Recorded January 14-18.△Signum
Classics SIGCD589.△CD.△**Naxos Music Library**.△**Accessed October 1,**
2020.△<https://ml.naxos.jp/album/SIGCD589>

おわりに

わからないことは…

仙川・調布図書館の
「なんでも情報デスク」まで！

(参考)

研究法に関する本は
図書館「レポート」コーナーへ



特に引用文献・参考文献の書式については、以下の文献が詳しいです。

- ・ウィンジェル, リチャード J. 2014. 『改訂新版 音楽の文章術——論文・レポートの執筆から 文献表記法まで』. 宮澤淳一, 小倉眞理訳. 春秋社.
- ・トゥラビアン, ケイト・L. 2012. 『シカゴ・スタイル——研究論文執筆マニュアル』. 沼口隆, 沼口好雄訳. 慶應義塾大学出版会.
- ・日本音楽学会ウェブサイト. 2023. 「『音楽学』書式の原則」. 2025年6月11日アクセス.
<https://www.musicology.jp/head/wp-content/uploads/2024/08/msjstyles.pdf>